

1

災害医療の現状と課題 — 広島大学の活動 —

我が国は近年の豪雨、地震そして原子力災害などさまざまな事象により、災害が「稀なこと」ではなくなりつつあります。またCOVID-19パンデミックも災害として捉え、DMATが活躍したことも記憶に新しいと思います。この講座では、災害医療における広島大学の活動の紹介とともに、次に来るべき新たな災害に向けての課題を挙げ、みなさんと共に考える機会にしたいと考えています。

会場	対面： 広島大学霞キャンパス 放射線災害医療研修棟 4階 401室 オンライン： -
時間	19:00 ~ 20:30
定員	対面： 100名 オンライン： -名
対象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	一次申込締切： 4/11 (木) ※ 定員に達しなければ 5/16 (木) (必着) まで先着順で受付

新型コロナ流行・G7広島サミット・能登地震における共通点と災害医療の応用

講師： 大学院医系科学研究科 救急集中治療医学 准教授 大下 慎一郎

第1回

5/23 (木)

19:00 ~ 20:30

能登地震を含め、医療における「災害」とは、地震や津波などの自然災害だけを意味するのではなく、平常時の病院診療能力を上まわる数の傷病者が発生した状況すべてを意味します。この観点から、新型コロナウイルス感染症流行は災害と言えますし、G7広島サミットにおいてテロ行為が行われた場合も災害と言えます。本講座では、災害医療と救急医療が異なる点や、地域の安全を守るために私たちが工夫していることについてお話します。

放射線災害医療体制整備はどこまで進んだか

講師： 原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療開発研究分野 教授 廣橋 伸之

第2回

5/30 (木)

19:00 ~ 20:30

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故からはや13年が経過しました。我が国の放射線災害医療体制は、「防ぎ得た災害死」を1人でも減らすべく新しい体制整備を進めています。広島大学は、高度被ばく医療支援センターおよび原子力災害医療・総合支援センターに指定され、国内外の研修指導を通して1人でも多くの放射線災害医療従事者・支援者を増やすべく活動しています。一方で、昨年来のウクライナ原発に対する攻撃は我々にとって新たな衝撃でした。本講座では、現在の放射線災害医療体制の現状と課題についてお話します。

J-SPEED - 災害時の健康データ管理

講師：大学院医系科学研究科 公衆衛生学 教授 久保 達彦

第3回

6/6 (木)

19:00 ~ 20:30

災害発生時には無数の支援者が被災地に駆け付け、支援者は災害対策本部による指揮調整のもと連携を図りながら共同して活動します。災害医療を効率的に展開していくためには、災害医療チーム等がどこで、どのような患者を、何人診療したのかを把握することが重要です。このために我が国で開発された手法がJ-SPEEDです。本講座では、本年元旦に発災した能登半島地震も含めてJ-SPEEDの運用実績を紹介します。

講座内容に関する
お問い合わせ先

霞地区運営支援部総務グループ（原医研主担当）

電話： 082-257-5802

メール： kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp